



ねらい

女性のライフコース疫学研究 「日本ナースヘルス研究(JNHS)」のすべて

日常診療のなかで生じたぼんやりとした疑問：Clinical Question(CQ)をPECO/PICOの形でResearch Question(RQ)として構造化し、それを“FIRM-2NESSチェック”によりブラッシュアップする。こうして得られたRQに対応する最適な臨床研究のデザインを選択する…。京都大学の福原俊一名誉教授がその著書「臨床研究の道標」(2013年)で述べられている研究手順である。研究デザインの選択は、研究者が介入を計画しない「観察研究」>比較対象のある「分析的観察研究」>要因とアウトカムの測定時点が異なる「縦断研究」と進み、要因(exposure：E)の測定から一定の時間を経てからアウトカム(outcome：O)を測定するのが「コホート研究」である。コホート研究はこの時系列に基づき、正確に測定したEとOとの時間的関係を示すことができるとともに、交絡因子を研究開始時に測定しておくことができる、Eに対して複数のOを測定できる、リスク比・発生率比だけでなくリスク差・発生率差を計算できる等の長所を有するが、一方で膨大な研究資金と労力を消費しながらそれらの大部分がOを起こさない人の追跡・観察に用いられるという短所を抱えており、組織経営に成功した少数の優等なプログラムのみが長期生存を許される過酷な世界である。

女性医学領域の大規模前方視的コホート研究として国際的に有名なのが、アメリカ人女性看護師を対象として主要慢性疾患の危険因子の解明を目的とするNurses' Health Study(NHS)で、1976年に開始され、30万人以上の女性を動員する半国家的プロジェクトである。わが国でも群馬大学の林邦彦特別教授により日本人女性看護師を対象とする前方視的コホート研究「日本ナースヘルス研究(Japan Nurses' Health Study：JNHS)」が2001年に開始され、現在まで49,927人が横断調査に回答し、15,019人が継続調査に参加している。特筆すべきはこのJNHSが国際的な女性コホートのコンソーシアムである“International collaboration for a Life course Approach to reproductive health and Chronic disease Events(InterLACE)”を構成する7カ国13研究の一角を構成しているということで、いわば女性コホート研究の「日本代表」である。日本女性医学学会も支援の輪に加わったわが国の誇るこのJNHSコホートをもとにこれまでに数多くの研究が行われ、50報を超える原著論文が国際的に発信されている。

本特集では主任研究者を長年務められた林特別教授のご監修のもとに、JNHS研究によって明らかにされた日本人女性の生活習慣・保健医療習慣と各種疾患との関連について、論文を執筆された先生方による概説をお願いした。わが国の女性医学領域発展の歴史とともに歩んできたJNHSの広大な世界を味わっていただければ幸いである。

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科茨城県地域産科婦人科学講座 寺内公一)